

研究領域名	ゲノム配列を核としたヤポネシア人の起源と成立の解明
領域代表者	斎藤 成也 (国立遺伝学研究所・集団遺伝研究系・教授)
研究期間	平成30年度～平成34年度
領域概要	<p>ヤポネシア（日本列島）には約4万年前に最初のヒトが渡来し、その後も何度か渡来の波があった。この枠組みの中で、ヤポネシア人（日本列島人）はどのような集団にその起源をもつのか、ヤポネシアにおける成立・発展の過程はどうであったのかを、多地域から選別した現代人数百個体と旧石器時代～歴史時代の古代人100名のゲノム配列を決定し比較解析することで、ヤポネシア人ゲノム史の解明をめざす。ヒトとともにヤポネシアに移ってきた動植物についても、それらのゲノム配列の比較から歴史を解明する。過去の人口増減の詳細な歴史を、ゲノム配列から推定する既存の方法や新規に開発する方法を用いて、再構築する。ヤポネシア人の歴史を多方面から検討するために、これらゲノム研究と、年代測定を取り入れた考古学研究や、日本語・琉球語の方言解析を含む言語学の研究グループとの共同研究をおこなう。これらから、文理融合のあらたな研究領域を確立する。</p>
科学研究費補助金審査部会における所見	<p>本研究領域は、分子人類学、ゲノム進化学、人類遺伝学、考古学、言語学、歴史学等を融合させて、日本列島に居住してきた人類集団「ヤポネシア人」の起源と成立の歴史について総合的な解明を試みるものであり、既存の学問分野の枠に収まらない新興・融合領域の創生など、研究の発展が期待される。人間及び動植物のゲノムデータの解析を中心に、考古学・言語学等の詳細なデータの分析を取り入れた「ゲノム歴史学」の手法により、旧石器時代から歴史時代、そして現代に至るヤポネシア人4万年の歴史を多角的に明らかにすることを目指す革新的な研究である。日本列島への三段階渡来説の検証など、日本人の起源等を中心に従来からの知見を刷新する成果が期待できる。</p> <p>一方、本研究領域が明らかにしようとするヤポネシア人の起源と成立は、出アフリカ以降のホモ・サピエンスの大移動の歴史の一部を成すものである。人類の拡散と文化の形成という、地球規模の研究の視野の中で、本研究領域がどのような貢献をし得るかという点を考慮の上、日本人の起源に範囲を限定しない大きな枠組みを維持しながら研究を推進することが不可欠である。</p>